

令和5年11月22日
企画調整局

北九州市基本計画 素案

教育関連部分抜粋

北九州市基本計画 素案

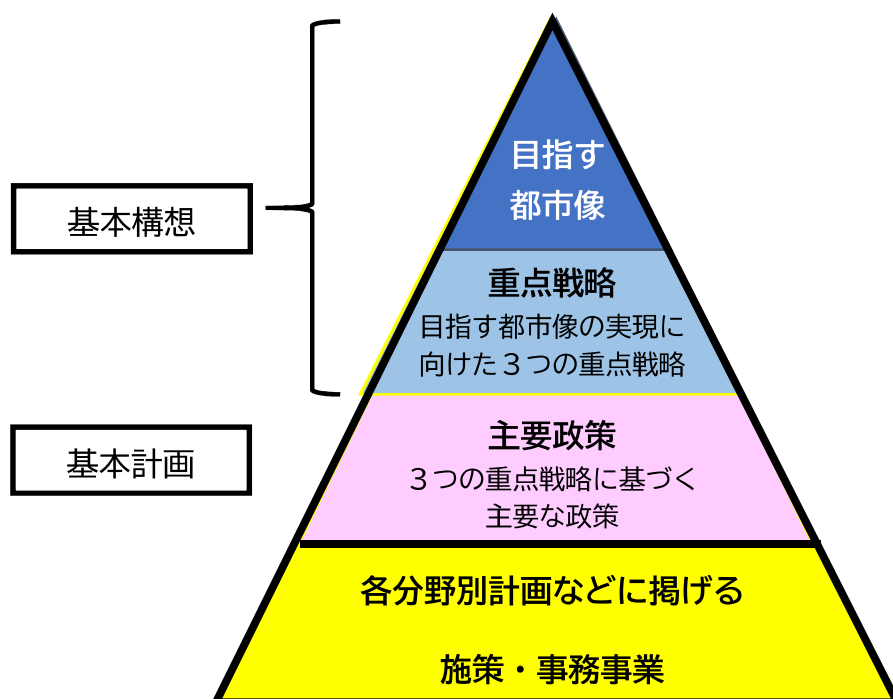
第1章 計画の策定にあたって	2～4
1 計画の構成	2
2 計画の期間	2
3 計画の見直し	2
4 計画の推進体制	3
5 計画と地方版総合戦略の関係	3
6 市政変革による基盤づくり	4
第2章 「稼げるまち」の実現 ～人も企業も潜在力を開花できるまち～	5
第3章 「彩りあるまち」の実現 ～輝く個性と楽しさがあふれるまち～	8
第4章 「安らぐまち」の実現 ～誰もがつながるアットホームなまち～	10
第5章 人口増に向けた道筋	12
第6章 主要な成果指標	14
第7章 7つの個性が輝くまちづくり	16～29
1 門司区	16
2 小倉北区	18
3 小倉南区	20
4 若松区	22
5 八幡東区	24
6 八幡西区	26
7 戸畑区	28
【参考】北九州市の人口の現状と将来見通し	30～34
【参考】これまでいただいた主な意見	35～37

第1章 計画の策定にあたって

1 計画の構成

基本計画は、今後の北九州市のまちづくりの方向性を明らかにした基本構想を実現するために、取り組むべき主要政策の体系や方向性をまとめたものです。

また、基本計画に掲げる主要政策は、「(仮称)北九州市産業振興未来戦略」をはじめとする各分野別計画などに基づき、毎年度の予算編成において、選択と集中の考え方のもと、施策や事業として具体化し実施していくこととしています。



2 計画の期間

基本計画の目標年次は、令和22年（2040年）とします。

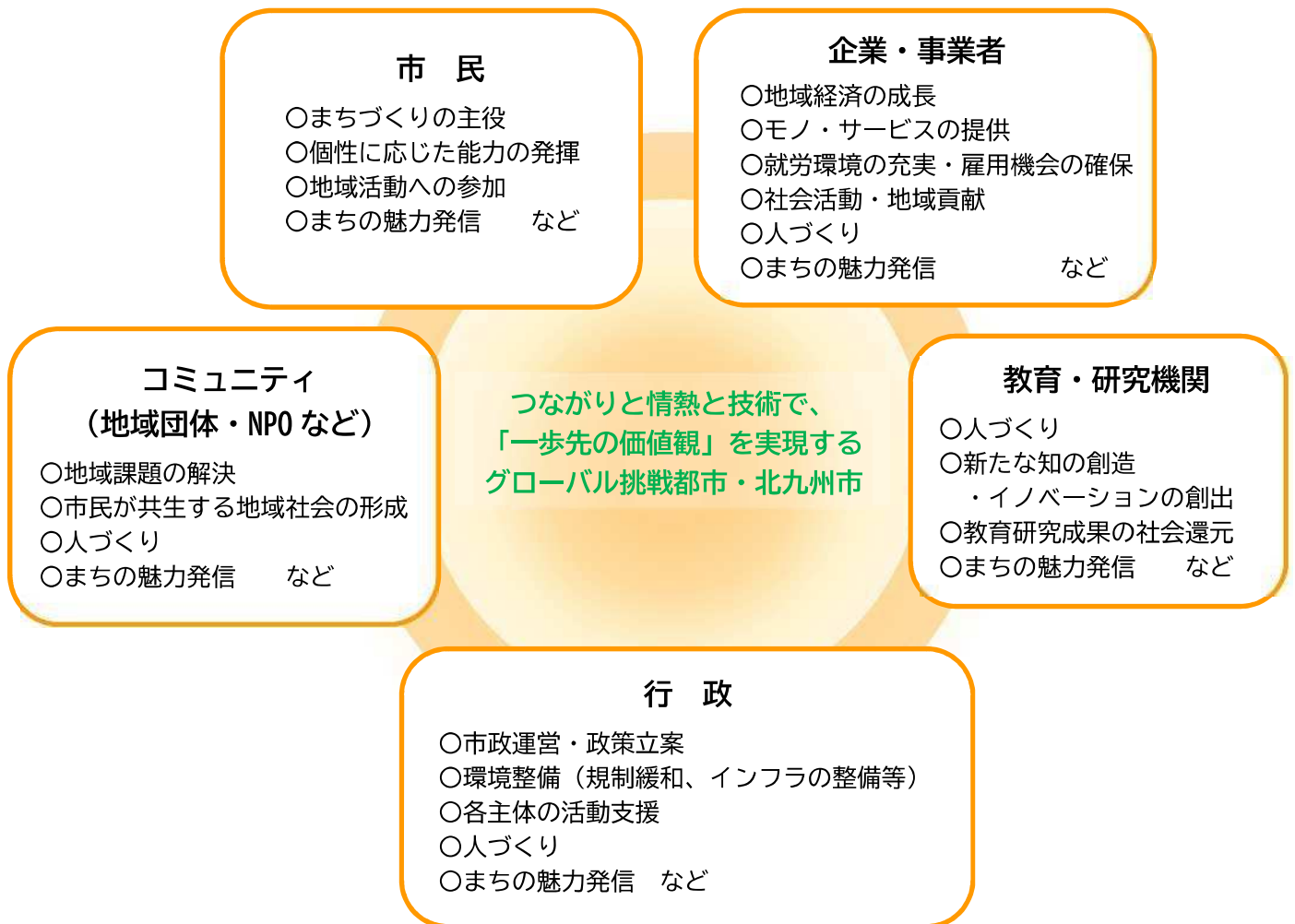
3 計画の見直し

社会経済情勢や市民ニーズの変化、計画の進捗状況などに応じて、概ね5年ごとに内容を検証し、適宜、計画の見直しを行うこととします。

4 計画の推進体制

基本計画に掲げる政策を、産学官民などの各主体がそれぞれの役割を果たすとともに、総合力を発揮することで、一丸となって推進します。

< 各主体における役割のイメージ >



5 計画と地方版総合戦略の関係

人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度な集中を是正し、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを目的に、平成27年（2014年）11月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、北九州市では、同法に基づき、令和2年（2020年）3月に地方版総合戦略として「第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しています。

今後の地方創生の取組みの方向性は、この基本計画に掲げる方向性と合致することから、地方版総合戦略は基本計画に包含し、一体的に取り組みます。

第2章 「稼げるまち」の実現 ～人も企業も潜在力を開花できるまち～

「稼げるまち」の実現にあたっては、産学官の連携により、陸・海・空のネットワークの構築や近隣市町との連携などの「稼げる基盤」を強めていくとともに、若者や女性をはじめとした多様な人材の就業や起業を後押しする「稼げる人」の育成を進めていきます。

また、若者に魅力ある企業の誘致に加えて、民間主導による、企業の魅力や生産性の向上、新規分野のビジネス展開など、「稼げる産業」を創出していきます。

こうした取組みによって、まちの「経済力」を高めることで、「人も企業も潜在力を開花できるまち」を目指していきます。

1 稼げる「基盤」をつくる

(1) 陸・海・空のネットワークの構築

24時間運用で Sea&Air 輸送が可能な海上空港である「北九州空港」の滑走路 3,000メートル化を契機として、国内外からのさらなる物流需要の取り込みや、利便性の高いアクセスの強化、旅客路線ネットワークの拡大に取り組みます。また、都市間の連携強化や、産業集積促進のため「下関北九州道路」の早期整備などによる道路網の充実や、北九州港におけるコンテナ・フェリーなどの物流、カーボンニュートラルポートなどの機能強化にも取り組みます。

(2) メガリージョンの推進

福岡市や下関市、18市町で構成する連携中枢都市圏をはじめ、北部九州エリア全体で大規模都市圏（Greater 北部九州圏）を形成することで、アジアを見据えた産業や人材の集積、観光誘客、都市インフラ整備などを推進します。

(3) 新たな産業用地などの創出

未来産業や物流産業などの企業誘致の受け皿となる新たな産業用地を創出するため、官民連携による先進的な事業手法の導入（規制緩和）や土地利用規制の見直しなどを推進します。

2 稼げる「人」を育む

(1) スタートアップの創出・成長

地域経済の発展や社会課題の解決に向けたイノベーションの担い手となる、スタートアップ企業や人的資源の創出・成長を支援します。また、未来の起業家を育成するため、学生期からチャレンジ精神や創造性・実行力を育むアントレプレナーシップ（起業家）教育を推進します。

第3章 「彩りあるまち」の実現 ～輝く個性と楽しさがあふれるまち～

「彩りあるまち」の実現にあたっては、民間投資を喚起しながら、魅力的な街並みや生活環境などの「彩りある空間」の整備を進めるとともに、心身に潤いや活力を与える文化芸術・スポーツの振興、観光地の魅力向上などにより、市内外の人々が「彩りある時」を体感できる環境を整備していきます。

また、多様で質の高い教育環境の充実により、子どもたちの個性を尊重し、将来の可能性を引き出して「彩りある人」を育みます。

こうした取組みによって、まちへの「愛着」や「求心力」を高めることで、「輝く個性と楽しさがあふれるまち」を目指していきます。

1 彩りある「空間」をつくる

(1) 都市の魅力を高める「まちなみ」づくり

都市の魅力や価値を向上させるため、小倉地区などを中心に、居心地がよく、出かけたくなる、歩きたくなる「ウォーカブル」なまちづくりを官民連携で推進し、ワクワクする賑わいのある空間を創出します。また、各地域の歴史や自然などの特色を生かした、緑豊かな美しい都市景観の形成を図るほか、集客力や魅力のある商業の振興を推進します。

(2) 選ばれる「住まい環境」づくり

充実した生活利便施設や公共交通などの都市インフラ、医療資源に加え、住環境と近接した豊かな自然を持つ北九州市の強みを生かし、利便性が高い地域における土地利用規制の見直しや積極的な民間投資の呼び込みにより、多様なライフスタイルに応える魅力的な住環境の整備を推進します。また、デジタルの活用と、多様な関係者との連携・協働を通じて、公共交通の利便性・持続可能性・生産性を高めます。

(3) デジタルによる「快適・便利・迅速な環境」づくり

AI・RPAの技術の導入など、DXを推進することにより、行政への相談や申請手続きなどの利便性を向上させるとともに、多様化する市民や企業のニーズにスピーディーに対応できる体制を構築します。

(4) 人や企業を呼び込む「都市の魅力」の発信

戦略的なプロモーションによる、北九州市の持つ多彩な魅力・強みの発信や、「子どもまんなか city」の推進を通じた、良質な子育て環境が整ったまちとしての発信により、都市イメージの向上を図り、シビックプライドの醸成とともに、国内外から人や企業を呼び込みます。

2 彩りある「時」をつくる

(1) 文化芸術やスポーツの振興

生活を健康で心豊かにする文化芸術やスポーツの振興を図るため、多様な文化芸術資源の維持・継承・発展に取り組むとともに、誰もが気軽にスポーツを親しみ楽しめる環境づくりやプロスポーツなどと連携したまちづくりを推進します。また、ICTなどを活用し、これからの時代に対応した多様なライフスタイルや価値観に応える文化芸術やスポーツの振興に取り組みます。

(2) エンターテインメントによる賑わいづくり

多くの人が集まり、賑わい、豊かな時間を創出するため、大型コンサートや大規模スポーツ大会などの誘致を推進するとともに、主催者が多様なイベントを開催しやすい環境づくりにソフト・ハードの両面で取り組みます。また、漫画・アニメ・ゲームなどのポップカルチャーのほか、アーバンスポーツの普及など、若者にとって魅力のあるまちづくりを推進します。

(3) 観光資源の磨き上げや発信の推進

観光コンテンツとしての魅力やシビックプライドの向上のため、各地域の歴史や文化、自然、産業、食などの資源を磨き上げ、組み合わせて発信していきます。また、ブランド力の向上や、国内外からの観光客の呼び込みにつなげるため、規制緩和による新たな観光機能の創出、MICE 誘致の拡大や富裕層向けの宿泊機能の確保など、質の高い観光サービスを提供します。

3 彩りある「人」を育む

(1) グローバル人材や理工系人材の育成に向けた教育の推進

これからの時代に求められるグローバルに活躍できる人材や、DX・GXを牽引する人材を育成するため、子どもの頃からの外国語や国際理解教育、理工系教育などの先進的な教育が受けられる環境づくりを推進します。

(2) 魅力ある新時代の教育機関の誘致

多様で質の高い、個性を生かす教育へのニーズに応えるため、国内外の私立学校やインターナショナルスクールなどの誘致実現に取り組みます。

(3) 将来の可能性を開く教育環境の充実

子どものウェルビーイング実現に向けて、誰一人取り残さない学びや先進的な学びなどにより、「こどもまんなか」で質の高い教育環境の充実に取り組みます。

また、市内大学がそれぞれの強みや特色を生かし、連携を図ることで、日本全体の18歳人口が減少する中でも、学生が持続可能で質の高い教育・研究を享受できる環境づくりを促進します。

第4章 「安らぐまち」の実現 ～誰もがつながるアットホームなまち～

「安らぐまち」の実現にあたっては、防災や防犯のまちづくり、社会インフラの維持など「生活基盤の安心」を支えることをベースに、質の高い福祉や介護、医療などのサービスが提供されるとともに、多様性を認め合いながら、地域のつながりを感じることができる「暮らしの安心」を支えていきます。

また、希望する人が安心して出産し、育児や子どもの成長を社会全体で支える「子どもや子育ての安心」を感じることができる環境を整備していきます。

こうした取組みによって、まちの「住みよさ」を高めることで、「誰もがつながるアットホームなまち」を目指していきます。

1 生活基盤の「安心」を支える

(1) 災害などに強いまちづくりの推進

市民の生命、財産などを守るため、災害に強いコンパクトシティの形成や河川の治水・浸水対策などを図るほか、デジタル技術を活用しながら、地域全体で防災力を高める取組みを推進します。また、消防力のさらなる向上による迅速な消防活動を図るとともに、市民の防災・防火意識の向上を推進します。

(2) 犯罪のないまちづくりの推進

市民の防犯意識を高めるとともに、防犯カメラなどの防犯環境の整備を図ります。また、警察との連携による、暴力団ゼロのまちの実現や多様化する犯罪集団への対策を強化し、安全・安心なまちとしての情報発信のさらなる強化を図ります。

(3) 社会環境やニーズに即した都市基盤・施設の維持

公共施設の集約再配置や予防保全の強化、社会インフラの長寿命化に向けた点検・工事の推進などにより、都市基盤・施設の維持に取り組み、持続可能で安全・安心なまちづくりを進めるとともに、デジタル技術などを活用した維持管理の高度化・効率化を図ります。

また、将来に渡る担い手を確保するなど、持続可能な建設業の実現のもと、地域のインフラ整備やメンテナンスなどに取り組みます。

2 暮らしの「安心」を支える

(1) 多様性を認め合う文化のまちづくり

市民一人ひとりが命の尊さと平和の大切さを認識するとともに、多様性を認め合いすべての人が大切にされていると実感できる社会の実現に向け、人権教育や人権啓発、多文化共生の理解促進などに取り組みます。

(2) 誰もが安心して暮らせる環境づくり

子どもから高齢者まで、誰もが年齢や障害の有無などに関わらず、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができる環境づくりに向けて、デジタル技術を活用しながら、保健・医療・介護・福祉サービスを維持・充実するとともに、市民の移動手段の確保を図ります。

(3) 地域医療提供体制や保健衛生管理体制の充実

デジタル技術も取り入れた救急医療体制の維持など、市民が安心して医療を受けられる体制を確保・充実するほか、新たな感染症拡大による危機に備えた仕組みづくり、食の安全や生活環境の衛生の確保に向けた監視・指導に取り組みます。

(4) 地域におけるコミュニティ活動などの活性化

時代の変化に伴う多様なニーズに対応した地域づくりを進めるため、社会貢献意識が高い若者やNPO、子育て・現役世代なども参加しやすい仕組みに強化します。

(5) 生涯現役に向けた活動などの活性化

生涯を通じて健康でいきいきと心豊かに暮らすことができるよう、市民の健康リテラシーの向上や健診受診・生活習慣の改善などによるヘルスケアを推進します。また、文化芸術・スポーツ活動などの生涯学習や社会参加を促進し、学習活動と地域・ボランティア活動のマッチングも進めます。

3 子ども・子育ての「安心」を支える

(1) 安心して生み育てることのできる環境の整備

市民一人ひとりの結婚、出産、子育ての希望がかなう社会の実現に向けて、保育関係者や地域、NPOなどと行政の連携やデジタル技術の活用により、安心して子どもを生み育てることができる環境を整備します。

(2) 子どもの健やかな成長への支援

子どもの健全な育成に向けて、家庭のみならず、地域、学校、関係機関、行政などが連携・協働し、子どもたちを社会全体で見守り、健やかに育む環境づくりを進めます。

第6章 主要な成果指標

指標名	現状値※1	目標値※2	備考
市内総生産額（名目）	3兆6,696億円	4兆円 (2033年度)	—
女性の就業率 (25～44歳)	75.5%	82.0%	国が掲げる目標値の達成を目指す
商業地地価（小倉） ※主要地点の平均地価	580,000円/㎡	871,000円/㎡ (2033年)	現状値の1.5倍を目指す
商業地地価（黒崎） ※主要地点の平均地価	148,000円/㎡	227,000円/㎡ (2033年)	現状地の1.5倍を目指す
将来の夢や目標を持っている子どもの割合	小学生 81.1% 中学生 66.8%	精査中	今後策定する次期教育プランとの整合性を図る
合計特殊出生率	1.46	1.8	国の希望出生率の達成を目指す
健康寿命	男性 71.9歳 女性 75.6歳	男性 76.0歳 女性 77.0歳	政令市1位の水準を目指す
地域活動に参加したことがある市民の割合	50.9%	60%	—

【参考】これまでいただいた主な意見

1 未来に引き継ぐ北九州市の「宝」

(1) 人と人、地域との「つながり」

- ・地理的特性から北九州市民は他所から来た人や文化を受け入れることにとっても寛容で、そのことが日本経済をけん引する原動力の一つにもなっていた。
- ・官営八幡製鐵所が操業して以降、このまちには、全国から多くの人が集まってきた。こうした多種多様な背景を持つ人々が交じり合うことが、活力やエネルギーにつながった。
- ・小倉祇園太鼓や戸畑祇園大山笠をはじめとする地域の特色ある祭りや歴史的な文化、自然の大切さを、世代間で大事に引き継いできた。
- ・市民と地域で 30 年間取り組んできた地域福祉の三層構造のネットワークは、これからもまちづくりを支えるものである。

(2) 北九州市民の「情熱」

- ・北九州市民は、一見とっつきにくく見えるところはあるが、実際は人情に厚く、郷土愛（まちへの愛着）が強い。そうした気質が、困難に直面した時にみんなで一つになり、困難を乗り越える力の源になっている。
- ・産業近代化、戦後の高度成長期に国内外から多様な人々を柔軟に受け入れ、その人々の挑戦を助けたり、応援したりするパワーを持っていた。今もそのパワーは、北九州市民に根付いている。
- ・高度成長期の激甚な公害を産学官民の連携の力で克服し、その技術と経験が国内外で高く評価されて以降、北九州市は「環境のまち」として広く知られ、そのことはシビックプライドにもつながっている。

(3) ものづくり・環境のまちを支える「技術」

- ・筑豊炭田があり、石炭産業が栄えた都市で、門司港を起点として物流・人流結節点となっていた。官営八幡製鐵所をシンボルとして、産業近代化、戦後の高度成長を支えたものづくりの基盤は、これからのまちの発展に向けても、強みとして生かすべきである。
- ・産業近代化に伴う負の側面（公害）が出てきた北九州市では、世界的に環境問題への関心が高まっていなかった時代から、「ものづくりの技術」と「市民の意識」の両面からアプローチしてきた。
- ・早くから 3R（リユース、リデュース、リサイクル）といった環境問題を着想し、そのコンセプトを磨いて具体的な手を打ってきた先見性とスピード感がある。そして、環境国際協力にも、熱い思いで取り組んできた。

2 未来にチャレンジする「まちづくり」

(1) 北九州市の使命

- ・北九州市から日本を変える、世界を変えるというまちになってほしい。地域志向ではなく世界志向で、この地域が日本に、そして世界にどう貢献するのか、世界的なビジョンを持つまちになってほしい。
- ・日本全体が衰退国家になってきている今、北九州市が起爆剤になって、日本のリーダー的な役割を果たしてほしい。
- ・日本は課題先進国と言われているが、その中でも、北九州市が課題を先進的に解決していく都市を目指すことが望ましい。
- ・先進国はほぼすべて人口減少局面に入っているので、北九州市がリードし、住みやすいまちづくりを進め、都市型のモデルケースを作れば、世界に誇れるまちになる。
- ・北九州市を本気で変えていこう、発展させていこう、世界から注目されるまちにしようという一丸力が求められている。行政だけでなく民間も含め、人もお金も本気も出し合えば、大きなエネルギーとなる。

(2) 稼げるまち

- ・アジアの玄関口、九州と本州との結節点という地理的優位性と、24時間利用が可能な北九州空港をはじめとする、陸・海・空の全ての輸送モードに対応した交通物流インフラをさらに生かすことが、このまちの競争力や魅力を高める。
- ・北九州市は、北九州市のことだけを考えるのではなく、近隣の福岡市や下関市などと連携し、お互いの強みと弱みをうまく補完し合えるような発展の方向を目指してほしい。
- ・スタートアップなど若い人が挑戦しやすい環境づくりや、リ・スキリングなどにより、このまちの人々の「稼げる力」を強化してほしい。
- ・性別や年齢、障害の有無、国籍を問わず、きちんとキャリアを積み、適切に評価され、しっかり働ける環境を実現してほしい。
- ・アジアの現在の課題の多くは北九州市が乗り越えてきた課題であり、少子高齢化は将来のアジアの課題であることを踏まえ、高度な外国人材を受け入れることが、アジアの活力を取り込む交流につながる。
- ・災害が少なく、豊富な水資源やエネルギーがあるこのまちは、「バックアップ都市」として、日本の非常時に対応できるポテンシャルを生かして、若者に魅力あるIT関係などの企業誘致や物流産業などの集積をさらに推進してほしい。
- ・このまちの成長は、これからの成長分野と言われている「情報」「半導体」「新エネルギー」の3分野をはじめとする関連産業をどれだけ取り込めるかにかかっている。
- ・このまちが生き残っていくには、ものづくりのまちというDNAに、DXやGX、AIなど新たな技術を組み合わせ、生産性向上や高付加価値化に取り組まなければならない。

(3) 彩りあるまち

- ・快適で魅力的な都市空間の形成には、歩行者の視点に立った「ウォーカブル」なまちづくりが重要である。また、自然と都会がコンパクトに集約されており、これらを融合させたまちづくりを推進してほしい。
- ・人々の価値観やライフスタイルが変わる中で、仕事だけでなく、文化芸術、スポーツに親しめ、上質なエンターテインメントを楽しめるような、多様な選択ができるまちであってほしい。
- ・素晴らしい観光地の本質的な魅力と価値を正しく届けることで、市内外から人を呼び込み、観光でも「稼げるまち」を目指してほしい。
- ・幼稚園から大学まで多様な選択肢があることが都市の強みである。国内外から人や企業を呼び込むには、グローバル人材やDX人材を育成する教育の提供や、インターナショナルスクールなどの誘致を検討するべきである。

(4) 安らぐまち

- ・自然災害がほとんどなく、暴力団排除により治安が改善されている。また、生活する上で、道路や水道といった社会インフラや公共交通機関が充実している。市民の暮らしのベースには、安全・安心が必要である。
- ・医療・介護の施設やサービスが充実しており、子どもから高齢者まで、また障害のある人も、安心して暮らすことができる。
- ・北九州市民すべてが、自分の尊厳を保ち、他者や社会とのつながりを感じるとともに、自身が属するコミュニティの中で幸福に暮らすことができるまちであってほしい。
- ・年齢や障害の有無に関わらず、人生を豊かに楽しめるよう、誰もが取り残されない、包摂性のある社会を目指してほしい。
- ・北九州市の健康寿命は全国平均を下回っているため、まずは健康寿命の引き上げを目標に、健康都市を前面に打ち出し、「シニアがいきいきと生活しやすいまち」を目指してほしい。
- ・フルタイム共働き世代の保育ニーズに応える環境を整え、性別を問わず、挑戦や活躍を後押しするまちであってほしい。
- ・常に子どもを真ん中において、子供たちがより伸び伸び生きることができる子どもの幸福度ナンバーワンのまちを目指してほしい。